

—あおぞら—

第56回大気環境学会年会開催のご挨拶

第56回大気環境学会年会 年会長
早稲田大学理工学術院 教授
名古屋 俊 士

第56回大気環境学会年会は、来る9月15日(火)から17日(木)までの3日間、早稲田大学西早稲田キャンパス(東京都新宿区大久保3-4-1)で開催されます。

本年会では322件の一般研究発表(うち口頭発表211件、ポスター発表111件)、シンポジウム2件(8講演)、特別集会4件(19講演)、分科会7件(22講演)が予定されています。さらに特別セミナー2件、ワークショップ1件、技術セミナー10件の開催と、併設される環境機器展には35社の出展を予定しております。

本年会では将来の大気環境保全を担う人材育成を目的として、口頭発表の学生・若手セッションを新設しました。学生および若手研究者による24件の発表がこのセッション(1日目午前および午後)で予定されています。

2日目午後の総会後のシンポジウムでは、「21世紀のエネルギーと大気環境」をテーマにして、東京理科大学大学院・橋川武郎先生による「将来の日本のエネルギーについて」や、トヨタと本田技研それぞれの技術者による水素社会に向けた取り組みについての講演、そして若松伸司学会長に「エネルギーと大気環境との関わり」を論じていただき、総合討論に進みます。

2日目夜の懇親会は、早稲田大学のユニークな学生によるさまざまな演奏やパフォーマンスを予定しており、リーガロイヤルホテル東京の美味しい食事とともに大いに楽しんでいただけるものと思っています。是非、懇親会へもご参加いただき、様々な参加者との情報交換にご活用いただきたいと思います。

さらに本年会では地球温暖化への関与が懸念されている大気中CO₂に関し、年会実施に関わる排出量を算出してカーボン・オフセットを実施します。さらに、特別セミナーとして地球温暖化の概要や、CO₂緩和策の一つとしてのカーボン・オフセットへの取り組みの現状を、産官学それぞれ7団体から発表いただきます。

なお本学会活動の社会還元の一環として、年会会場の一つである63号館で行われる上記の特別セミナーや技術セミナー、環境機器展のほか、特別集会「福島第一原子力発電所事故直後の大気中放射性物質動態、炉内事象および初期被ばくの研究に関する新たな進展とその横断的な考察」を、一般公開企画(参加費無料)として実施します。

第56回と長い歴史の中で今回初めて早稲田大学で開催されます。年会会場となる早稲田大学西早稲田キャンパスは、都心にあり交通アクセスに優れていることから、学会員をはじめとして産業界や官界からの参加も含め、例年以上に参加され、活況ある学会になることを期待しております。多くの方々が参加されることをお願い申し上げます。